

国語科 第3・4学年

「物語を読んで、平和について考える」

中心学習材3年「ちいちゃんのかげおくり」／4年「一つの花」

中心学習材である3年「ちいちゃんのかげおくり」、4年「一つの花」を読み、子供たちの中に芽生えた問いを起点に学びを展開します。問いの追究に夢中になって物語を読み深め、自らの考えを広げたり深めたりしながら考え続ける子供の姿を目指します。

問いの追究を通して、戦時中の人々の暮らしや家族の思い・愛情について読み深めるとともに、「戦争」「平和」「家族」「豊かさ」といった中心的なテーマについて、自分自身の生活や経験と結び付けながら考えを深めることを目指します。

また、複式学級において子供が自立的に読みを深めていけるよう、一人一人に芽生えた問いを意図的に関連付け、橋渡しすることで、子供同士の相互作用から個の読みが深まる学びを実現します。そのために、各学年の直接指導の場面では、対話を通して協働的に問いを生み出したり、個々の問いを共有して価値付けたり、追究の方向性を見出したりします。そして、間接指導の場面においては、自らの問いを基盤として主体的に物語を読み深め、追究に没頭する子供の姿の実現を目指します。



(伊藤 翔悟)

算数科 第5学年

平均「ならした大きさを考えよう」

測定した結果を平均した数値について、妥当な数値を得るためにはどう考えたらよいか話し合い、平均のいかし方をより深く考える授業を提案します。

ゴムの力で動く車の実験結果から、飛び離れた値や予想外の値があった場合に、「その値は含めていいのかな」「のぞいて計算した方が正確かな」と、目的や文脈に合わせて平均を求める場合があることについて議論していきます。

そのために、既習の問題場面と比較したり、異なる値で考察したりすることで、平均の意味をより深く理解することを目指します。また、単元を通して学んできた概括的に考えるよさを、日常生活へ広げていくたのしさを追究します。(金田 大志)



理科 第6学年

「植物のからだのはたらき」

科学的な条件を手掛かりに、実験の結果を根拠として考えを見直し、より妥当な考えを導出する授業を提案します。

本時では、「根から取り入れられた水は、植物の体のどこを通過して全体に運ばれるのだろうか」という課題について探究します。子供たちは数種類の植物を用いた実験を行い、それぞれの結果を比較しながら、水の通り道について考えます。そして、共通性・多様性の見方を働かせ、多面的に捉えながら考察し、より妥当な考えを導出していきます。

教師は、結果を基に考えを見直す場や、友達と結果を交流する場を意図的に設定します。また、「学級みんなが納得できる説明になっているか」という、客観性を意識して結果を整理し、自分の考えを吟味できるように支援することで、子供が学びをたのしむ姿を目指します。(鈴木 健太)



図画工作科 第1学年

「はさみ ぱらだいす一造形遊び」

洗濯ばさみをつないだり並べたりしてどんなことができるのか体全体をつかって何度も試し、自分で活動を見つけていく授業を提案します。

子供たちの生活にとって身近な洗濯ばさみ。たくさんさんの洗濯ばさみと出会った子供たちが、洗濯ばさみの形や色などを基に、自分で活動を見つけていく授業を行います。

本時は、子供が思いや願いをもって活動を行うことを大切にします。また、友達との関わりが生まれる場を設定し、「もっと長く並べてみたい」「○○さんとつなげてみたい」など、子供が発想を広げていく中で、自分たちの見つけた活動に喜びを感じることでできる授業を目指します。(今野 瑤子)



音楽科 第1学年 「せんりつでよびかけあおう」

めいっぱい歌ったり体を動かしたりしながら、児童が問いをもち、曲を聴き味わうことができる授業を提案します。

本時は、チャイコフスキーが作曲した組曲の中の「こうしんきょく」を、管楽器が奏でるファンファーレのような旋律と弦楽器の軽やかな旋律の2つの主な旋律に着目し、「呼びかけとこたえ」が生み出す曲のよさや面白さを感じ取りながら、曲を味わって聴いていきます。

音楽に合わせて歌ったり体を動かしたりすることで、2つの旋律が交代しながら何度も現れ、旋律が呼びかけ合っていることを体感できるようにします。また、「もし、呼びかける旋律だけだったら...」「もし、こたえる旋律だけだったら...」と、歌い試したり、音楽を聴き比べたり、友達と考えを伝え合ったりすることで、音楽のよさや面白さを自分なりに味わう姿を目指します。

(松館 慧)



家庭科 第5学年 「衣服で変える！夏の生活 ～提案！わたしのクールビズ～」

生活の中の衣服選びに着目し、自分の衣生活を見つめ直す授業を提案します。

本時では、コーディネートゲームを取り入れ、子供たちが楽しみながら衣服の選び方について考えられるようにします。また、実際の衣服を比較したり、自分の衣服の選び方を振り返ったりする活動を通して、衣服選びに関する新たな視点に気付けるようにします。

そして、「なぜこの服装がよいのだろう」「夏を快適に過ごすにはどのような衣服を選べばよいのだろう」といった生活に対する問いをもち、自分の思いや願いと結び付けながら、夏の快適な着方について問題を見だし、自分なりのテーマを設定する姿を目指します。

(伊藤 雅子)



体育科 第6学年 「仲間とつなぐ！きめる！キャッチバレー」 (E ゲーム イ ネット型ゲーム)

ねらった場所に返球するためにどのように動いたらよいのかを考え、返球の仕方を試行錯誤し、ラリーを切ることをたのしんでいる授業を提案します。

本時の学習では、相手チームのブロックをどのようにかわして得点をきめるのかを考え続けることをねらいます。

メインゲーム（3対3の3段攻撃）を中心に、戦術の達成度を向上させられるようにします。そのため、ねらった場所に返球するためにはどのように動けばよいのかを分かり直しができるように問いかけを行います。一人で時間差攻撃をしたり、返球するコース（ストレートやクロス等）を工夫したり、試行錯誤することでラリーを切ることをたのしむ姿を目指します。

(藤澤 春菜)



特別の教科 道徳 第4学年 (クラスたいこう全員リレー) 「自分が思う正しいことを」

判断と言動を一致させる難しさについて考えることを通して、自分を信じて行動する大切さに気付き、積極的によい行い、正しい行いをしようとする心情を育てる授業を提案します。

本時は、「正しいと思っていても伝えられない」という人間がもつ弱さを乗り越えるために、自分はどう在ればよいか真摯に向き合うことを通して、自分が信じるよいこと、正しいことを行っていきたいという今後の生き方を志向することをねらいます。

そのために、教材文に描かれた道徳的事象から問いを見出したり、自己の道徳的価値に対する認識の変容を自覚化する振り返りを行ったりして、子供たちが、よりよい自己の生き方を模索し続ける姿を目指します。

(谷藤 光明)

